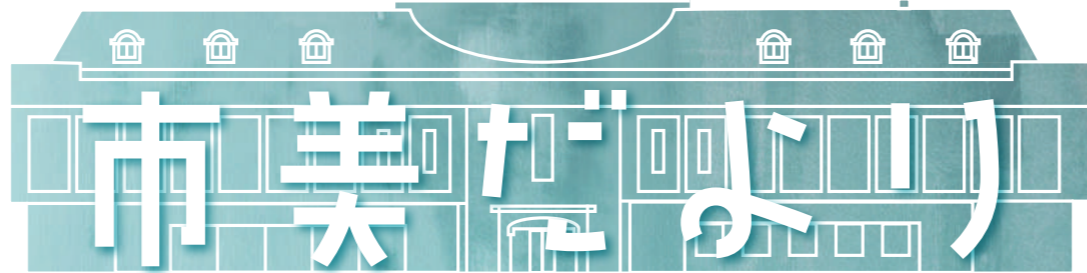




愛されるより、愛することの方が大切

2024年 春号
No.27



鹿児島市立美術館 | KAGOSHIMA CITY MUSEUM OF ART

発行 鹿児島市立美術館
〒892-0853
鹿児島市城山町4番36号
TEL(099)224-3400



無料開放日のお知らせ

毎月第3日曜日は、小・中学生は無料開放日
です。所蔵作品展 + 小企画展を
無料で鑑賞いただけます。



4月21日📅、5月19日📅

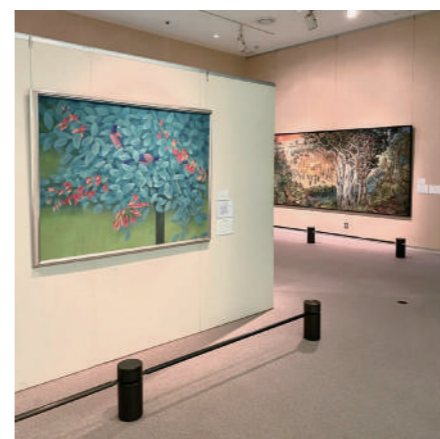
春の所蔵品展 (西洋美術+郷土作家+特集コーナー)

ミニ特集：美しき島々-奄美・沖縄の風景を描いて

会期：3月5日(火)～5月6日(月・振休)

当館のコレクションを紹介する所蔵品展では、黒田清輝をはじめとする鹿児島ゆかりの作家の作品、そして19～20世紀の西洋美術の流れをたどる展示を行っています。今回の所蔵品展では、桜など春の季節を感じさせるモチーフの作品も紹介します。またミニ特集では、2023年

12月25日に奄美群島が本土復帰70周年を迎えたことにちなみ、奄美を描いた作品や、奄美出身・ゆかりの画家を中心に紹介します。日本の南方に位置する鹿児島は広い県域をもち、温帯から亜熱帯にわたる温暖な気候のもと、多くの島々を有しています。なかでも、奄美大島を中心とする奄美群島の、美しい海や独特の植生、自然と共に育まれてきた伝統文化は、画家たちの創作にインスピレーションを与えてきました。田中一村、岩下三四、遠藤影子らの多様な表現をお楽しみください。



銀幕の世界に舞い降りたオードリー・ヘプバーンは1953年、「ローマの休日」で、アカデミー主演女優賞を獲得しました。その後、絶大な人気と女優としての確固たる地位を得、映画での活躍だけではなく、ファッションアイコンとしても名を馳せました。本展は、ファッション、映画、プライベートをテーマとして構成します。一流のハリウッドフォトグラファーによるオードリー・ヘプバーンの写真作品をお楽しみください。



《窓辺の婦人》1919年、油彩・キャンバス 縦66.5×横46.0cm

が生まれたきっかけは療養のために南フランスのニースを訪れたことでした。北フランス出身のマチスは、光あふれる温暖な土地柄に魅了され、1917年以降の4年間、秋から春にかけて制作活動に打ち込みました。開放的な窓がある海辺のホテルに滞在し、その室内は本作をはじめ、数々の作品に描かれました。模様のある壁紙や敷物などが、華やかに空間を彩っています。一方で、窓辺にたたずむ女性の衣装や、窓から見える人影の黒が、画面を引き締めています。陰影をつけない描き方や軽やかなタッチから、室内を包む太陽の光、吹き抜ける海風を感じませんか。マチスが愛したニースの雰囲気をもみなさんも想像してみてください。

新しいロゴデザイン誕生！

2024年9月1日に、当館は開館70周年を迎えます。これに先立ち、「かごしまデザインアワード2023」にて、美術館の新しいロゴデザインを募集しました。全国から寄せられた300点を超える応募作品の中から選ばれたのは、東海夏斗さん（鹿児島市在住、デザイナー）の作品です。鹿児島市立美術館の頭文字「K」をモチーフとして、旧ロゴのイメージに「幅広い層に親しみやすく開かれた美術館」というコンセプトを加え、素敵なデザインをつくっていただきました。

新しいロゴデザイン



開館70周年記念ロゴデザイン



アンリ・マチス《窓辺の婦人》

マチスは実物の再現にとられない描き方で、絵画の可能性を開いた20世紀美術の巨匠です。目に見えたままの色だけでなく、自由な発想による色使いから、「色彩の魔術師」と呼ばれています。ある時は、人物の顔を左右異なる色で描き、鼻を緑色に塗ったこともあります。常識をくつがえす大胆さから「野獣（フォーヴ）」と評された画風は、この作品が描かれた頃になると穏やかな色使いで、装飾性豊かなものへと変化しました。新たな表現